ふるさと歴史発見

第三十回 城井鎮房書状

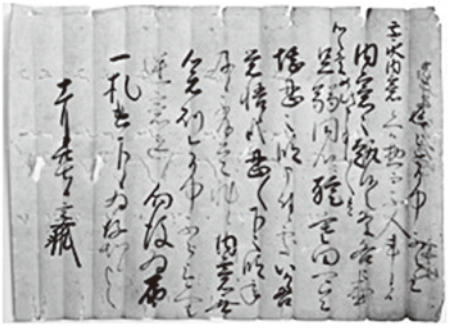
写真の書状は宇都宮鎮房の数少ない発給文書のひとつで、みやこ町伊良原の旧家臣の進家に伝来した古文書です。

豊臣秀吉の九州平定後の天正十五年七月、黒田孝高（官兵衛）が豊前に入国しましたが、十月頃まで上毛郡や下毛郡で宇都宮氏一族が一揆を起こします。そして十月二日には鎮房も赤郷（大任柿原）から寒田に戻り挙兵します。十月九日、黒田長政は城井谷を広幡城、岩丸谷から攻めたが敗戦し、馬ヶ岳に戻ります。しかし十月下旬、長政は再び城井谷の西尾根（茅切・小川内）に向城を築いて攻めます。さらに秀吉は毛利、吉川、小早川まで出陣を要請します。このように切迫した状況下の十一月二十七日に鎮房が家臣に宛てた書状がこの資料です。

内容は、「（黒田勢の城谷攻めに備えて）家臣たちには足弱（非戦闘員のこと・女や子供や老人）ともども寒田に立て籠もり堪忍するよう申付けたのに、未だに籠城していないではないか。堪忍は明年にまで及ぶことは申すまでもない。内意（家臣全体の意志）であるので、今月中に寒田に籠城しなければ私（鎮房）への反逆である。この書状を遣わすのでよく承知するように。」

黒田勢の城井谷攻めに対して鎮房のあせりと切迫感がひしひしと伝わります。

※則松弘明氏・木村達美氏の訳を参照。（文化財保護係　髙尾）



（活字訳）

返々今月中不被上、宗永内意候へは、惣而不入事にて候之条、如此申事候矣、内意之趣候条、各々事足弱同心二聢寒田可令堪忍之段、申付候処、いかが各覚悟候哉、忍々下々明年及候、不及是非候内意無心元、則今月中不被上候へは、逆意迄候、向後為届一札遣下候、為存知候、謹言

十一月廿七日　宗（花押）

※「宗」は鎮房の法名「宗永」略です。

宇都宮氏歴史講座（初級編）　第４回「現地見学バスハイク」のお知らせ

現在放送中の大河ドラマ「軍師官兵衛」。その最大の宿敵（ライバル）“宇都宮鎮房”を生んだ豊前宇都宮氏４００年の歴史について、その足跡を巡ります。第１回・２回は豊前宇都宮氏４００年の歴史について、豊前宇都宮氏研究の第一人者「則松弘明先生」を講師に九州に来た経緯から黒田氏に滅ぼされるまでの歴史について学びました。第３回では築上町内にある豊前宇都宮氏関連の史跡について写真等を見ながら学びました。いよいよ第４回目は実際に現地をバスで巡りながら、その残した足跡をたどります。

日　時　３月９日（日）９：００～　築上町役場築城支所出発（１５時解散予定）※雨天決行。

持参するもの　弁当・水筒

※２０分程度の山歩きもしますので動きやすい服装・靴でご参加ください。

受講料　５００円（当日徴収します。）※参加者は全員保険に加入します。

定　員　６０名（電話による事前申し込みが必要）

※２月２８日（金）までにお電話にてお申込みください。なお締切日前に定員に達した場合はその時点で締め切らせていただきます。ご了承ください。第４回目のみの参加も可能です。ただし、第１回目から連続で参加されている方が優先となります。また、築上町民の方、優先です。

申込・問い合わせ　船迫窯跡公園　電話（５２）３７７１　※月曜日休館

大河ドラマ「軍師官兵衛」スペシャルトークショー

日時　２月22日（土）13：00～15：00

場所　福岡県立青豊高等学校体育館

出演　陣内孝則（戦国大名「宇喜多直家」役）

中村高志（「軍師官兵衛」制作統括）

※入場無料（但し、満員の際はご入場をお断りする場合があります。）

問い合わせ　豊前市役所総務課内豊前築上地区官公庁等連絡協議会事務局　０９７９（８２）１１１１